

令和4年度 石川県水産振興協議会 次第

令和4年11月15日(火)
10時30分～12時00分
県庁11階1110会議室

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委員紹介
- 4 議題
 - (1) 「いしかわの水産業振興ビジョン」の進捗状況について
 - (2) 主な水産施策等の紹介
(首都圏PR、最高級ブランド、水産流通適正化法について)
 - (3) 水産総合センター研究概要について
 - (4) その他
- 5 閉会

令和4年度 石川県水産振興協議会 結果概要

(1) 「いしかわの水産業振興ビジョン」の進捗状況について

- ・事務局より平成29年度に策定した標記ビジョンについて、4つの目標ごとに取り組みの進捗状況を説明した。

(出席委員からの主な質疑・意見)

- ・近年底びき網漁業では、漁業者の息子であっても、他の仕事を経験してから漁業者になるケースがある。国の収入安定対策で経営が安定することに加えて、資源管理のために出漁日数が少なくなっており家族とのふれあいの時間が持てることから、納得して漁業に就いていると感じている。
- ・定置網で漁獲量が多いと値段が下がってしまうことがあり、干物などに加工して付加価値を向上させたいと、来年からの販売に向けて事業を立ち上げた。
- ・天然と養殖、どちらを選ぶかは物によって評価が異なる。天然が良い、養殖はダメと一律に判断して購入することは無い。
- ・以前は、とり貝はもらうものであって買って食べたことが無いぐらいの食べ物だったが、今は天然物が獲れなくなってきており、それぐらい海の環境が変わってきているのだと感じている。

(2) 主な水産施策等の紹介

- ・事務局より本県の新鮮な水産物の魅力を首都圏に広くPRし販路・消費の拡大を図る、首都圏でのトップセールスの取り組みを説明した。
- ・加能ガニ「輝」、香箱ガニ「輝姫」、天然能登寒ぶり「煌」といった県産水産物の最高級ブランドの設定による、県産水産物の知名度向上とブランドイメージの浸透を図る取り組みを説明した。
- ・水産流通適正化法（略称：流適法）の施行により、アワビ、ナマコについては令和4年12月から漁獲番号の伝達や取引記録の保存等が必要になることを説明した。

(出席委員からの主な質疑・意見)

- ・「煌」に関して、能登のブリが美味しいということがもっと広まるよう力を入れて欲しい。ネット上で「石川県の魚がおいしい」と声が上がってくるのがまだまだ少ない。人のネットワークの口コミの影響は強い。SNS等を活用するなどネットでの口コミに力を入れ、ブランド化とリンクしてくれば効果的だと思う。
- ⇒事務局：県漁協もSNSを活用し始めており、中にはリツイートが1万件を超えるようなものもある。また、石川県のお魚が食べられるお店というパンフレットも作成し配布しているところ。単にブランド化するだけでなく、県と県漁協で連携し、石川県でブリを食べようという動きにつなげていきたい。
- ・煌の鮮度管理の方法や、胴回りの基準などは？
- ⇒事務局：鮮度管理については洋上での冷却など最低基準を設けたうえで、更なる取り組みについては漁業者の研鑽を促すこととしている。胴回りについては測る場所などに対し様々な意見があり数値基準を決めることが困難であったため、競り人の

目利きによることとなった。

- ・輪島では、ブランド化自体を目的とするのではなく、輪島産の魚を食べてもらうルート構築が必要と考え、県漁協輪島支所と連携しながら、市内の飲食店でのフルコースの提供や、ふるさと納税への展開、さらには関東、関西、東海地方でのフェアの開催などに取り組んでいる。
- ・冬の魚ばかりブランド化しているように見えたが観光客を引っ張ってこれるような夏の魚のPRも必要ではないか？。

⇒事務局：石川県では四季それぞれに多種多様な魚が獲れる。県漁協ではいしかわ四季のさかなPR推進協議会を立ち上げ、ガスエビのフェアなどにも取り組んでおり、トップブランドの創設と併せ、四季折々の石川ならではの魚を紹介していこうと戦略を考えていると聞いており、冬に限定することなくPRできればと県も考えている。

- ・夏と言えばイワガキ。江戸時代から漁が行われてきた。道の駅などで販売すれば大行列になるほど人気がある。供給量を増やし地域を元気にしたいと取り組んできた結果、3～4人まで減ってしまっていた生産者が6人にまで回復し、来年さらに1人増える見込み。能登の一品に認定されて若い生産者がやる気を出している姿を見ると、良かったと感じている。

- ・流適法の届出番号については、市場へ出荷するたびに番号を付ける必要があるのか。

⇒事務局：そのとおり。

- ・密漁を防ぐためには、アワビなどを漁業者以外が獲ることは密漁だと知ってもらうことが効果的であり、県と海保と県漁協が密漁対策に取り組んでいることを新聞などで取り上げてもらったところ、そういった行為が無くなったと感じている。

(3) 水産総合センター研究概要について

- ・水産総合センターが実施しているイカ釣漁業支援について説明した。

(出席委員からの主な質疑・意見)

- ・藻場ビジョンが公表されたが、あれは航空写真から調査作成したのか。また、藻場の復活に取り組んでいる方の講演会を11/18に開催するので参加いただければ。

⇒事務局：藻場ビジョンについては、人工衛星の画像と、水中カメラ等によりスポットで現地確認した結果から藻場ビジョンを作成している。

(4) その他

(出席委員からの主な質疑・意見)

- ・金沢大学がサーモンやフグで研究しているが、県はどのように連携しているのか？漁船漁業の出漁日数が減ってきており、休漁日に取り組める養殖があれば安定経営になると思う。

⇒事務局：センターでは、卵の提供や、魚病診断などで協力している。先日の金沢大学のフォーラムでも、地元で養殖したものを期待する声も聴いているが、適した魚種の選定や種苗の入手方法の検討が重要と思っている。今まで漁船漁業に携わって

いた方が魚を育てるとなると大変な苦勞が伴うことになる。その部分も関心を持って養殖について真剣に話し合っていた方がおられれば、そのお手伝いができるのではと思っているので、普及員などへ相談いただければ。